

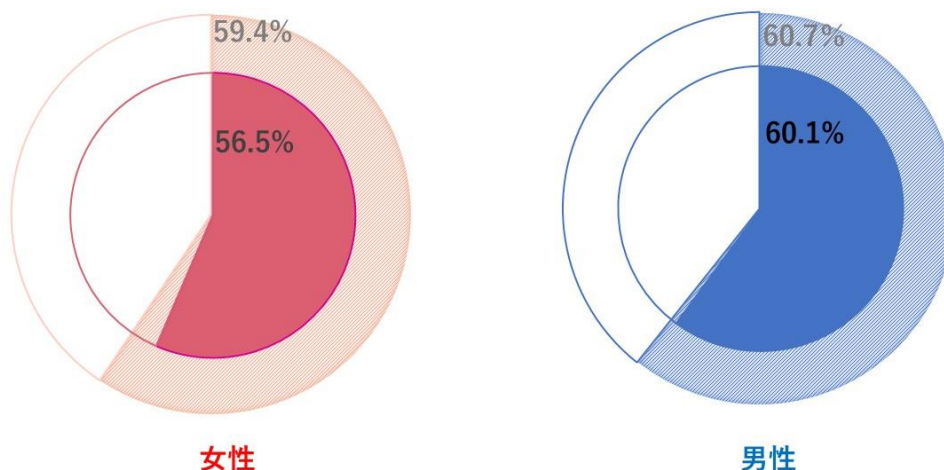
**【当てにならない家族の意見。第三者に気付かれる体臭も、6割の確率で家族には分からない!?】**  
1500件の体臭検査で分かった日本人の体臭傾向と改善策第3弾。

個人の体臭を検査し、体臭改善のサポートを行うサイト「体臭クリーニング」を運営する株式会社ベネフィット・イオンでは 2018 年末現在で体臭検査ユーザー1500 人分のデータを保有するに至りました。1500 件の体臭データは統計学上、すべての日本人の体臭の傾向を窺い知るには十分な数です。

体臭検査を受検するユーザーは、基本的に自分自身の体臭に悩んでおり、その改善を目指しますが、その悩みを家族にはあまり理解されていないという現実が今回の調査で明らかになりました。詳細は以下の通りです。

第三者に指摘された経験がある、自分自身でも体臭の自覚がある等という、改善すべき体臭のある人のうちの **58.1%**が、体臭に関する家族からの指摘が無かったことが判明しました。また男女別に見ると、下記グラフの通り、女性に於いては **56.5%**(695 人のうち、393 人)の検査ユーザーが家族から指摘を受けたことが無く、男性に於いては **60.1%**(564 人のうち、339 人)が家族から指摘を受けたことが無かったという結果となりました。

体臭検査ユーザーの内、「家族からの体臭指摘がなかった人」の割合（外円）  
改善すべき体臭があるが「家族からの体臭指摘がなかった人」の割合（内円）



なお、「改善すべき体臭が有る」という当社判断は、下記の条件のうち、いずれか或いは重複して該当する場合に「有り」とされます。

- ① 第三者に体臭を感知される可能性のある接近限界距離が1m以上である。

- ② 脇の下のワキガ臭・その他の上半身のワキガ臭・スソワキガのいずれか或いは複数の発露がある。
- ③ 鼻嚙りや咳き込み、くしゃみ等の第三者反応が起こるほどの刺激感物質発露があり、パトムであると判断される。
- ④ 加齢臭と判断される等の、忌避度の高い基礎体臭バランスである。
- ⑤ GCMC データで、ワキガ臭原因物質を含む忌避度の高い臭気分泌物の検出がある。
- ⑥ GCMS データ上の総分泌量として同性同年代平均値以上である。或いは突出している臭気物質の検出がある。(GCMS とはガスクロマトグラフィー質量分析計の略称で、分泌物の種類・分泌量を解析する検査機械のこと)

体臭検査ユーザー1500人(女性 887 人男性 613 人)のうち、1259人(女性 695 人男性 564 人)が上記に該当しました。

なぜ、このように「家族以外の第三者からは体臭の指摘がある、或いは身体的な反応(鼻嚙りやくしゃみをされる、鼻をつままれる、怪訝な表情で見られる、避けられる等)をされるのに、家族に聞いても「気にしすぎ」「ニオイは無い」等という答えが返ってくるという、相反する状況が起こるのでしょうか？

家族側の感覚的な要因としては以下の2つが考えられます。

- ① 順応が働いて、家族は実際に体臭を感知できない。
- ② 同じ環境で生活しているため、或いは同じような体臭があるため、気にならない。

順応とは、外界からの刺激に対して感覚器官が慣れていくことを指し、人間の嗅覚に於いては「いつも感じている臭いを自分自身の体が感覚的に遮断してしまう」という現象のことを言います。つまり、自分自身の体臭はもとより、いつも一緒にいる家族の体臭は、他の家族にとっては「そこに存在しないニオイ」として嗅覚が本能的に無視してしまう、ということになります。

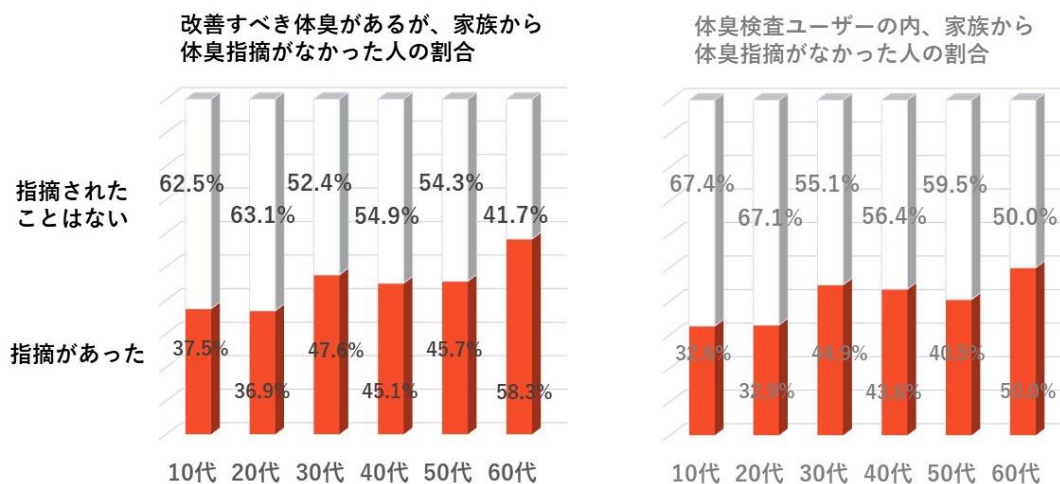
参照文献東洋オンライン「なぜ人は自分のニオイに気付けないのか」

<https://toyokeizai.net/articles/-/226565>

もう一つの要因としては、同じ食習慣、同じ環境の括りの中で一緒に暮らしているので、同じような体臭が発生していて、それぞれが家族間の体臭に関して無関心になってしまっている、ということも考えられます。また夫婦間、パートナー間では問題となりませんが、親子等の血縁関係がある場合、遺伝的要素も無視できません。

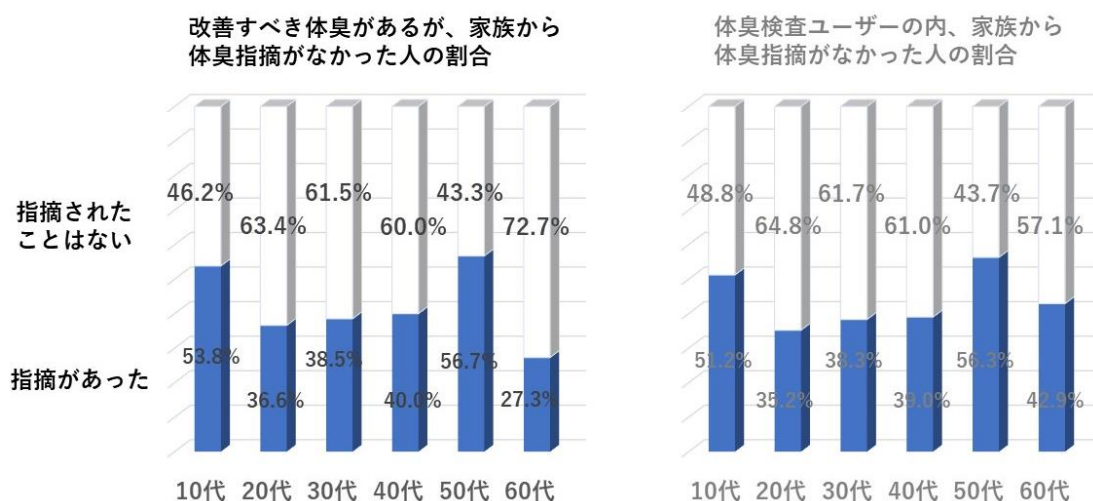
このことにも、それぞれの家族に順応が働いています。しかし、例え「ニオイ」を感知できたとしても、それが「普通のこと」と思ってしまう心理が家族間の指摘を思い留まらせているとも考えられ、それが第三者反応との乖離につながっていると予測されます。

次に男女別、年代別に家族間指摘を見てみましょう。まず女性では前述の通り「改善すべき体臭のある女性」に於いて **56.5%**の比率で家族からの体臭指摘がありませんでした。これは「すべての体臭検査ユーザー(すなわち、体臭がそれほど悪い状況ではないというユーザーも含めた)調査に於いての体臭指摘のない比率(**59.4%**)よりも低い指摘率です。



左側が「改善すべき体臭がある女性ユーザー」だけを抜き取ったグラフになります。年代別の推移は右側グラフの「すべての体臭検査ユーザー」の推移とほぼ変わりありませんが、それぞれの数値を比べてみると、若い年代(10代・20代)に於いての体臭指摘の比率が低いということが分かります。これは親を含む家族の「若い女の子だから体臭のことを指摘すると傷つく」、更には「体臭があることに気付いているからこそ言い出せない」という心理が、低い数値となって表れていると予想されます。

次に男性に於いての家族間指摘を見てみましょう。男性では「改善すべき体臭のある男性」に於いては **60.1%**の比率で家族からの体臭指摘がありませんでした。男性の場合でも「すべての体臭検査ユーザー(すなわち、体臭がそれほど悪い状況ではないというユーザーも含めた)調査に於いての体臭指摘のない比率(**60.7%**)をわずかながら下回っています。



男性に於いても、年代別のグラフの推移は似通っています。しかし特筆すべきは、10代及び50代で、他の年代に比べて家族間での指摘が顕著になされているという結果です。体臭検査の問診表では、10代男性に於いては母親から、50代男性に於いては同居する女性(妻及びパートナー並びに娘)からの指摘が多いとの記述が数多くあります。上記グラフの調査結果と考え併せてみれば、「指摘しやすい相手には率直に指摘してしまう」という、女性心理が垣間見えます。

「家族は何も言わないのに、他人からクサイと言われる」という悩み相談が非常に多く、体臭の悩みの一側面となっています。実際には社会生活に於いての第三者の指摘や反応が、悩んでいる方の体臭の現状と合致する場合があります。その為、自分自身の体臭の現実を知ることが改善の第一歩でありながら、家族の「感覚的な無関心或いは無用な心遣い」が悩み解決の妨げになっているという現実があり、その対処が求められるということになります。

当社の「体臭検査」では第三者の立場として個人の体臭を判定するので、体臭に悩む方は自身の状態を的確に把握できることとなります。そして、それをもとに改善を目指すことが、社会生活でのストレスや軋轢からの解放に繋がります。第三者の立場から当社の体臭検査では以下のことが分かります。

- ① どの程度離れている人に体臭が感知されてしまうのか？
- ② どんなタイプの体臭なのか？ つまりワキガや便臭、生臭さなど、第三者が不快に思う体臭なのか？ そうではないのか？
- ③ 体臭の原因となる臭気物質は何なのか？ その臭気物質はどんな臭いがあるのか？
- ④ 体のどの場所から体臭が発露しているのか？ またそれぞれの場所ではどんな臭いがどの程度発露しているのか？

また改善策として、以下のご提案を致します。

- ① 分泌物の内容及び量をコントロールするための食生活や生活習慣
- ② 臭気物質除去のための体表ケア
- ③ 衣類の消臭ケアについての指導
- ④ 改善アイテムの提供

改善アイテムとは

- ① 分泌物内容に合わせたカスタムメイド洗剤
- ② 臭気物質除去と臭気発生を防ぐ石鹸やシャンプー
- ③ 体臭状況によっては体臭発散を防ぐ化粧品や洗濯助剤等となります。

体臭検査のラインナップは以下の通り。

- ① 体臭検査
- ② 全身体臭検査
- ③ ワキガ検査全身
- ④ ワキガ検査
- ⑤ PATM 検査
- ⑥ 全身 PATM 検査

下記の URL で検査依頼が出来ます。

<https://benefit-ion.com/>

【1500 件の体臭検査で分かった日本人の体臭傾向と改善策】のバックナンバーは下記 URL からご覧頂けます。

【第 1 弾】女性の加齢臭はノナールの過剰分泌が最大の原因。

<https://benefit-ion.com/press-benefit1.pdf>

【第 2 弾】実は思い過ごし!? 自分自身の体臭に怯える女性のうち「2 割以上」は人並み以下の体臭だった <https://benefit-ion.com/press-benefit2.pdf>